

## 令和元年度 第3回 久留米市国民健康保険運営協議会議事録

1 日 時 令和2年1月28日(火) 13:30~14:00

2 場 所 久留米商工会議所 5階 Aホール

3 出席者 (委員)

区 分	氏 名	出 席
公益代表	松岡 保治	○
	吉武 憲治	
	田中 功一	○
	南島 成司	○
被保険者代表	馬場 淳子	
	甲斐 サエ子	
	田中 孝子	○
	永松 千枝	
保険医又は保険薬剤師代表	田中 二三郎	○
	首藤 俊介	
	本村 精二	○
	杉本 奈緒美	○
被用者保険等保険者代表	木屋 禎	○
	権藤 裕子	○

(事務局)

健康福祉部 部長	窪田 俊哉
健康福祉部 次長	松延 完治
健康推進課 課長	吉塚 哲
地域保健課 課長	本松 寿史
健康保険課 課長	藤木 達也
健康保険課 保険料主幹	千代島 智昭 他

(傍聴者)

なし

#### 4 質疑要旨

2 諮問			
委員	保険料の賦課限度額引き上げにより、令和 2 年度の保険料収入は令和元年度と比較し、増加するということか。	事務局	増加するかどうかについては、決算後でないと分からない。被保険者数は年々減少しているため、保険料は減少していく。限度額が上がった分、保険料は増加すると思うが、現段階では分からない。
3 審議			
委員	令和 2 年度は、余剰金で対応するということがあった。それ以降は財政的に厳しくなるということなので、3 年度以降については、また検討していく必要がある。令和 2 年度についてはこの内容で了承する。		
委員	了承する。		
委員	了承する。国保の被保険者は減少しているとのことだったが、減少はずっと続くのか。	事務局	数年後には、この減少は止まると思う。団塊の世代が後期高齢者医療制度へ移行することで落ち着く。
委員	了承する。2025 年問題で後期支援金が増えてくるという懸念がある。他の保険者も同様だと思う。		
委員	令和 2 年度は、料率の変更がないということでこのまま進めていただきたい。しかし、医療費の伸びを考えると、今後財政状況は厳しくなると思うので、何らかの取り組みが必要である。		
委員	国保は医療給付費分・後期支援金等分・介護納付金分があり、国保の被保険者が減少する分、後期高齢者医療の被保険者が増えるため、後期支援金等の負担が増加しないかが心配である。また高度医療が保険適用となることで医療費が増加することも心配である。 被保険者にとって、保険料の据え置き		

	<p>はいいことだが、数年後が心配である。一度に保険料が上がるよりも少しずつ上げていった方がいいのかなとも思う。加入者のことを考えると据え置きというのは良いことだと思う。</p>		
委員	<p>見込上、運営可能ということであれば、了承する。被保険者側としては、できるだけ負担が少ない方がよい。</p>		
委員	<p>了承する。</p>		
<p>答申の附帯意見について</p>			
委員	<p>収納対策を強化して行ってもらっているが、現在、収納率はどのくらいか。ぜひ 95% 目指して更に頑張っていたきたい。</p>	事務局	<p>H30 の収納率は 94.8%、H29 は 93.45% となっており、年々上昇傾向にある。</p>
委員	<p>来年度以降、医療費が上昇していき、被保険者は減少していく状況で、市町村だけでは限界がある。国への要望に力を入れて取り組んでいただきたい。</p>		
委員	<p>先ほどの説明で、1人あたりの納付金が県内で 17 位ということだったが、保険料の平準化してもらおうと、この順位も下がるのではと思う。平準化という課題について、どのように考えているのかについても附帯意見に加えてもらえれば。</p>	事務局	<p>理想としては県内全体が同じ保険料となる方がいい。県も最終的には、平準化に向けて動いていると思う。他県では実際に動いているところもある。先ほどの、国・県への要望ということについては、市長会等を通して財政支援を要望している。</p>
<p>4 その他</p>			
<p>質疑なし</p>			